

# 4つの場面ごとの目指すべき姿

- 在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる場面(①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り)を意識した取組が必要である。
- 4つの場面ごとの現状分析、課題抽出、目標設定等を行う前提として、地域のめざすべき姿を必ず設定し、その目的を実現するために、達成すべき目標を4つの場面ごとに設定することが重要である。

出典:令和2年9月、厚生労働省老健局老人保健課発行「在宅医療・介護連携推進事業の手引き」23頁

在宅医療・介護連携推進事業における目指すべき姿

住み慣れた地域で安心して人生の最期まで暮らせるまち

### 日常の療養支援

本人とご家族が  
どちらも、治療や介護  
サービス等を継続して  
活用し、健康管理  
や気持ちの変化を  
専門職で共有する  
ことにより、在宅で  
安心して暮らすことが  
できる

現状把握

現状分析・  
課題抽出・施策立案

評価

改善

### 入退院支援

本人の心身状態を把握  
したうえで体調の変化を  
早期に発見し、再入院の  
リスクを回避すると同時  
に、在宅での安全な生活  
を継続する。また、入院  
時の生活と在宅での  
生活に差がないよう、  
スムーズに移行すること  
で、その方らしさの支援  
を行う。

現状把握

現状分析・  
課題抽出・施策立案

評価

改善

### 急変時の対応

医療と介護、救急  
(消防)が連携すること  
により、本人の意思を  
尊重したうえで、急変  
時に適切な対応が  
できる

現状把握

現状分析・  
課題抽出・施策立案

評価

改善

### 看取り

最終的に、すべての  
利用者がよかったと  
思える理想の最後を  
迎えられよう  
看取りができるように  
する

現状把握

現状分析・  
課題抽出・施策立案

評価

改善